

全国産業安全衛生大会

—安全・健康の未来を拓こう 神戸から—

11 月に神戸市で開催

理化学研究所・高橋政代氏が特別講演

中央労働災害防止協会（会長 ^{さかきばらさだゆき} 榊 原定征・（一社）日本経済団体連合会会長）は、平成 29 年 11 月 8 日（水）から 10 日（金）までの 3 日間、ワールド記念ホール、神戸国際展示場、神戸国際会議場などにて、「第 76 回 全国産業安全衛生大会」（別添 1）を開催します。

本大会は昭和 7 年の第 1 回開催以来、企業の経営者、産業安全・労働衛生スタッフ、管理・監督者、産業保健スタッフ、大学等の教育機関など、働く人の「安全と健康」づくりに携わる関係者約 1 万人が参集する国内最大の安全衛生イベントとして、毎年開催しており、今秋で 76 回目を迎えます（参考資料）。

神戸では、前回 2007 年（平成 19 年）の開催以来、10 年ぶりの開催となります。今年、開港 150 年を迎え、日本の新たな時代の扉を開いてきた国際都市「神戸」で、これからの労働災害防止対策や防災等について、参加者が情報を共有する場となります。今大会では約 11,000 人の参加を見込んでいます。

併せて、本大会の会期中、安全衛生に加え、防災にも力点を置いた国内最大の保護具・機器の展示会「^{りよくじゅうじてん}緑十字展 2017 —働く人の安心づくりフェア—」（別添 2）を開催します。

本大会・展示会の詳細については今後、当日等の取材のお願いと併せて、随時、発表させていただきます。

なお、本日 2 月 1 日（水）15 時より「第 76 回全国産業安全衛生大会第 1 回実行委員会」を神戸市（神戸三宮東急 REI ホテル）で開催し、開催要領等について説明する予定です。

※この資料は、兵庫県政記者クラブ、神戸市政記者クラブ、神戸民間放送記者クラブに加え、厚生労働記者会、厚生労働省労政記者クラブ、経済産業省ペンクラブ、鉄鋼研究会、自動車産業記者会に配布しています。

中央労働災害防止協会 教育推進部長 中屋敷 勝也
同 企画課長 大久保 利一

【照会・取材連絡先】

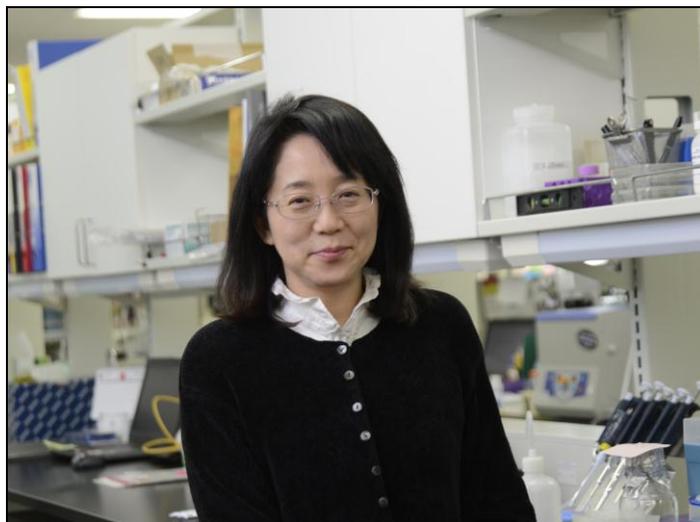
中央労働災害防止協会 総務部 広報課長 高橋 まゆみ
(電話) 03-3452-6542 (FAX) 03-3453-8034

【初日：総合集会】（ワールド記念ホール）

式典のほか、労働安全衛生の分野で功績のあった企業や個人の表彰、厚生労働省による講演に加え、特別講演（下記）などを行います。

《特別講演》

11月8日（水）の総合集会において、理化学研究所多細胞システム形成研究センターの高橋政代さんの特別講演を予定しています。



高橋 政代氏 プロフィール

高橋 政代氏

理化学研究所多細胞システム形成研究センター

網膜再生医療研究開発プロジェクト プロジェクトリーダー

京都大学大学院医学研究科博士課程修了後、京都大学医学部助手を経て米国のソーク研究所研究員となりここで網膜治療に幹細胞使用の可能性を見出す。2006年より理化学研究所へ。現在に至る。

【2～3日目：分科会】（神戸国際展示場ほか）

10を超える分科会を設け、シンポジウムや講演、企業による研究発表など、約200題のプログラムを用意いたします。

《予定している主な分科会と内容》

- ・化学物質管理分科会：白川英樹氏（2000年ノーベル化学賞受賞）講演予定
- ・リスクアセスメント／マネジメント分科会：労働安全衛生マネジメントシステムの導入・定着事例など

※新たに今秋発行予定の「ISO45001」に関する討論

- ・第三次産業分科会：第三次産業における安全衛生活動の事例など
※今年新たにスタートした「働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動」（主唱：厚生労働省、中災防）に関する取組成果の発表など
- ・安全衛生教育分科会：危険体感教育の事例、企業内安全衛生教育のあり方など
- ・メンタルヘルス／健康づくり分科会：ストレスチェックの活用などメンタルヘルス対策に関する事例など
- ・防災・危機管理分科会：企業における防災・震災対策、危機管理、事業継続計画（BCP）事例など

・さらに、安全管理活動、労働衛生管理活動、ゼロ災運動、機械・設備等、交通安全などの分科会も設ける予定です。

・今年が、国が策定した「第12次労働災害防止計画」の最終年であることから、その総括と、新たに策定される「第13次労働災害防止計画」に関する展望の発表なども行う予定です。

第 76 回(平成 29 年度) 全国産業安全衛生大会 開催要領

【目的】 全国各事業場における産業安全、労働衛生の関係者が一堂に集い、労働安全衛生にかかる功績者に対する表彰等を行う式典や事業場からの研究発表、最新の安全衛生の課題に対応した講演等を通じて産業安全、労働衛生の推進向上を図り、もって労働災害防止に寄与する。

【大会テーマ】 安全・健康の未来を拓こう 神戸から

【主催】 中央労働災害防止協会

【協力等】 協力

一般社団法人 兵庫労働基準連合会
協賛（予定）

建設業労働災害防止協会
陸上貨物運送事業労働災害防止協会
港湾貨物運送事業労働災害防止協会
林業・木材製造業労働災害防止協会

後援（予定）

厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、警察庁、ILO 駐日事務所、兵庫県、神戸市、一般社団法人 日本経済団体連合会、日本商工会議所、全国中小企業団体中央会、公益社団法人 関西経済連合会、兵庫県経営者協会、兵庫県商工会議所連合会、神戸商工会議所、兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業団体中央会、一般社団法人 兵庫県医師会、兵庫県社会保険労務士会、兵庫産業保健総合支援センター、日本労働組合総連合会兵庫県連合会、公益社団法人 日本保安用品協会、一般財団法人 地方公務員安全衛生推進協会

【開催地】 兵庫県神戸市

【会期】 平成 29 年 11 月 8 日（水）～10 日（金）＜3 日間＞

【参加対象者】 全国各事業場における産業安全、労働衛生の関係者

【参加予定数】 約 11,000 名（招待者を含む）

【参加費】 12,900 円（賛助会員 6,400 円）※いずれも消費税込み

【会場】 総合集会（平成 29 年 11 月 8 日（水））：ワールド記念ホール
分科会（平成 29 年 11 月 9 日（木）、10 日（金））：神戸国際展示場 ほか
神戸市内各会場

りょくじゅうじてん
緑 十 字 展 2017
一働く人の安心づくりフェアー 開催要領

- 【目 的】 安全衛生保護具や作業環境改善機器等の展示を通じて、職場における安全衛生水準の向上を促進し、労働災害のない、働く人の心身両面にわたって健康で快適な職場環境の形成に寄与する。
- 【内 容】 安全と健康の確保に係る機械・機器、安全衛生保護具、職場環境改善、作業方法改善、健康増進・リフレッシュ関連分野など、広範な分野の最新の機器、設備、情報について約 100 社が出展する。
- 【主 催】 中央労働災害防止協会
- 【協 力】 一般社団法人 兵庫労働基準連合会
- 【協 賛】 日本労働災害防止推進会
- 【後 援】 (予定)
厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、警察庁、兵庫県、神戸市、一般社団法人 日本経済団体連合会、日本商工会議所、全国中小企業団体中央会、公益社団法人 関西経済連合会、兵庫県経営者協会、兵庫県商工会議所連合会、神戸商工会議所、兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業団体中央会、公益社団法人 日本保安用品協会、一般財団法人 地方公務員安全衛生推進協会、日本労働組合総連合会兵庫県連合会、一般社団法人 兵庫県医師会、兵庫県社会保険労務士会、兵庫産業保健総合支援センター、NHK神戸放送局
- 【開 催 地】 兵庫県神戸市
- 【会 場】 神戸国際展示場 1・3号館
- 【会 期】 平成 29 年 11 月 8 日 (水) ~ 10 日 (金) <3日間>
- 【出 展 分 野】 (1)安全衛生関連分野 (2)機械安全関連分野 (3)職場環境改善関連分野 (4)作業方法改善関連分野 (5)健康増進・リフレッシュ関連分野 (6)防災関連、地球環境保全・温暖化対策分野 (7)その他
- 【来場数見込】 15,000 名
- 【参加対象者】 全国産業安全衛生大会参加者、地元事業場の経営首脳及び安全衛生・環境保安・人事・労務担当者、産業医、保健師、衛生管理者、自治体の安全衛生担当者、工業系の大学・専門学校、工業高校等の教職員・学生等
- 【入 場 料】 無料

全国産業安全衛生大会の 誕生とあゆみ

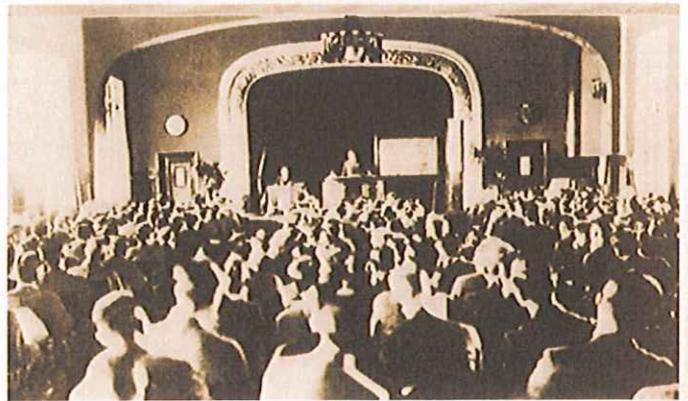
◆ 昭和7年、第1回『全国産業安全大会』 東京で開催

第1回の全国産業安全大会が、(財)産業福利協会の主催により、1932年(昭和7年)11月21日から3日間、東京・神田の学士会館で開催され、300人を超える人たちであふれた。

安全運動の先駆者・蒲生俊文の司会のもと、“同志が集う”会場には熱気があふれ、互いに手を取り合っただ安全運動を推進していこうとする連帯ムードが高まった。

大会の目的の一つである「連帯」は十分に果たされたが、それにも増して注目されるのは、その後ひたむきに継続されることとなる安全対策への「科学の導入」といえるものであった。

それは、「人間とは何か」にメスを入れ、人間の持つ弱点をカバーする方策に取組もうとする科学的姿勢が、企業の中に生まれつつあることを示したものであった。



盛況な第1回全国産業安全大会 昭和7年11月 東京・学士会館

◆ 昭和29年、第1回『全国労働衛生大会』 東京で開催

1954年(昭和29年)10月14、15日の2日間、東京の読売ホールにおいて、全国から1,300人の主に労働衛生管理に携わる関係者が集い、第1回の全国労働衛生大会が開催された。

北は富士製鉄(株)室蘭製鉄所から南は旭化成(株)延岡工場まで、いずれも衛生管理の進んだ事業場からの発表であった。結核、鉛中毒、けい肺などの予防に関する報告が目立った。

◆ 昭和44年に『安全大会』と『労働衛生大会』が一本化されて『全国産業安全衛生大会』に

昭和42年の東京大会は、労働基準法施行20周年記念大会として初めて安全、衛生両大会の合同開催となり参加者は13,000人を数えた。



全国産業安全衛生大会・総合集會

翌々の1969年(昭和44年)には、現在の「全国産業安全衛生大会」の、原型が生まれ内容を拡充するとともに、「緑十字展」を盛大に開催することとなった。

2016年(平成28年)の仙台開催では、全国から10,500人の安全衛生関係者が集い安全衛生の推進を誓い合った。



総合集会・災害ゼロへの誓い

「緑十字展」も神戸で併催

◆ 緑十字展とは

労働災害の防止及び働く人の心身両面にわたって健康で快適な職場環境づくりのために安全と健康の最新情報と技術をご紹介するわが国最大の展示会。安全衛生保護具、機械の本質安全化にかかる機器、職場環境・作業方法の改善機器、健康増進機器等の展示や装着体験セミナー等を通じて、職場の安全衛生を普及・促進する。



緑十字展 2016 in 仙台

2016年(平成28年)の仙台開催では、全国から12,000人を超える安全衛生関係者が、最先端の技術や知見を求めて会場を訪れた。

◆ 第1回緑十字展は昭和43年、安全会館(東京都港区)

1968年(昭和43年)9月30日から10月7日にかけて、東京都港区の安全会館および同会館前広場において、全国労働衛生週間にあわせて開催された。

翌1969年(昭和44年)の名古屋市で開催の全国産業安全衛生大会から、毎年同時開催するようになり現在に至り、今回が50回目。



墜落衝撃実験



安全衛生保護具体験道場

参考資料:「安全衛生運動史・安全専一から100年」(中災防発行)
「日本労働災害推進会のあゆみ」(日本労働災害推進会発行)